

## 障害者支援施設 皆生やまと園

### 1 基本方針

「尊厳の保持」をサービス提供の基本とし、利用者が健康で生きがいを持ち、安心して生活できるよう支援を行うとともに、地域生活への移行を積極的に推進する。

また、地域住民などとの連携強化や情報公開等による透明性の確保を図り、真に地域に信頼される施設となるように努める。

### 2 利用者の状況（令和3年3月31日現在）

#### (1) 入所者状況

(人)

利用人数		前年度末利用者数	令和2年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数		
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別										
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)	死亡					
生活介護	40	43	1	1	GH	アパート等					0	0	0	0	0
施設入所支援	40	40	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	14,200	97.1%	40
元 轉	生活介護	40	41	4	2	0	0	0	0	0	0	2	10,673	98.8%	43
	施設入所支援	40	40	2	2	0	0	0	0	0	0	2	14,260	97.4%	40

#### (2) 障害支援区分

##### ①生活介護

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	2	9	11	22
女性	0	0	0	0	5	5	11	21
計	0	0	0	0	7	14	22	43

##### ②施設入所支援

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	2	8	10	20
女性	0	0	0	0	5	5	10	20
計	0	0	0	0	7	13	20	40

### 3 事業の実施状況

#### (1) 生活介護の充実

ア ユニット体制（10名×4ユニット）での生活支援をすることにより、利用者により密な信頼関係の構築に努めた。

またご飯を各ユニットで炊飯して提供するなど家庭的な雰囲気を提供できるよう努めるとともに、新型コロナウイルス感染防止のための自粛した生活を少しでも豊かにと各ユニットでの個別のおやつ作りやドライブなど楽しみのある行事などを実施した。

イ 個別支援計画に基づき、食事、排泄、入浴等の基本的な日常生活動作について、個人の能力や障がいの特性の沿った支援を提供することに努めた。

特に高齢化による介護技術の取得への取組、また強度行動障がい者への支援ために事例検討会を開催し、事業団内の専門職員を招いて事例に沿った検証を行い、利用者が落ち着いて生活できるよう取り組んだ。

ウ 地域移行の推進及び社会資源の活用については旧施設からの課題であるが、新型コロナウイルス感染防止のため積極的な取組は出来なかった。

ただ、地域での就労系の事業所等との連携は継続しており、今後も自立生活力を高める支援を提供することができるよう目標を掲げていく。

#### (2) 日中活動支援の充実

日中活動を利用者の特性等に合わせて2班に分け、次のとおり充実を図った。

- ア 大風班（主に強度行動障がい者に対する専門的支援）  
 精神科医師等と連携を取りながら構造化、応用行動分析等の手法を継続し、事例検討を繰り返すことにより利用者の認知能力、適応能力等を理解し、行動障がいのある者が混乱なく穏やかに生活が送れるよう支援した。  
 利用者個別の障がい特性により、活動時間や活動内容を再検討しより集中して取り組んでいただけるよう環境設定を行った。
- イ すまいる班（主に高齢者・病弱者のための介護予防、生きがいづくり）  
 午前の活動は健康・運動機能の維持や向上、午後は楽しみを目的とした活動を行った。  
 また、身体機能低下防止を図るため、月1回作業療法士による利用者の身体機能の評価の実施及びその評価に基づいた機能訓練の指導を受け、日々の活動時に実践した。  
 音楽療法、ワーク活動、レクリエーション等の他に、季節ごとの行事をとおして日常生活に変化を与え、生きがいづくりの向上に繋げるよう取り組んだが、様々な地域資源の活用については今後の課題である。
- (3) 虐待に繋がらない環境づくり  
 ア 日々の業務点検の他、「虐待ヒヤリハット」の作成・検証、強化項目の設定、業務の振り返り、虐待グレーゾーン事例検討会、虐待防止に関する研修会の実施、また職員間での風通しの良い雰囲気など虐待の起こりえない環境づくりに努めた。  
 イ 様々な障がい、年齢層に対して合理的配慮を行うことを徹底した。  
 ウ ストレスチェックの結果をもとに、身体的ストレスを軽減するための研修や園長面談による悩みや要望等の聞き取りを行う等、働きやすい環境づくりに努めた。
- (4) 地域との交流  
 地元自治会の活動が縮小傾向にあり、あわせて新型コロナウイルス感染防止により地域行事を通じての交流を行う機会がなかったが、自治会への機関誌の回覧による情報提供を行った。  
 今後とも皆生みどり苑と連携し、近隣住民との積極的な交流に繋げるとともに、障がい者に対する理解や啓発を進めたい。
- (5) 経営改善・基盤の確立  
 ア 今年度は新型コロナウイルス感染症と向き合いながらの1年であった。  
 運営、生活、活動に感染予防を第一に考え、感染は防げることは出来た反面、利用者には限られた中での支援内容となった。  
 入所と退所は1名で大きな変化はなく定員を満たした状況であるが、短期入所と日中一時支援については、新型コロナウイルス感染防止対応の影響により僅かながら減少した。  
 イ 今年度退所の1名は、入院後の死亡によるものであり、施設全体での高齢化による病弱化が進んでおり、入院の可能性は高くなると考える。日頃の健康管理と早期受診等で対応をしている。  
 ウ 入所者の確保については、ユニット体制のため、入所待機者（60人前後の待機者数が続いている。重度の方や精神障がいの方が多い。）の中からユニットの特性に合った利用者の選定が必要なため、入所選考に時間がかかり苦慮している。  
 また、短期入所については強度行動障がい者等の専門的なケアを必要な男性利用者からの希望が多く、既存の利用者で利用日が埋まっていることもあり、新規受入れが難しい状況である。  
 女性については短期入所の希望者は少なく、日中一時支援事業での受入れを実施している。  
 ・目標稼働率：生活介護97.0%、施設入所支援95.0%、短期入所42.0%  
 ・実施稼働率：生活介護98.2%、施設入所支援97.1%、短期入所36.6%
- (6) 皆生みどり苑との連携推進  
 皆生みどり苑と行事予定等の情報共有を行うとともに、公用車を共用で使用する等、効率的な運営に努めた。  
 また、消耗品など共同契約が可能なものは共同で行い、業務委託契約についても両施設で検討して共同化を図り、事務手続きの軽減及び経費節減に努めた。

#### 4 実習、ボランティアの受入状況

##### (1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取県社会福祉協議会	8月	1人	1人
鳥取短期大学	8、9月	4人	44人
計		5人	45人

- (2) ボランティアの受入実績  
実績なし

## 5 附帯事業

- (1) 短期入所事業 定員 2名  
(2) 日中一時支援事業 定員 空床利用 (主な受入市町村: 米子市、境港市、南部町)  
(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	3	263	3	308
日中一時支援事業	5	224	4	148